常議員立候補のご挨拶

宗　像　孝　志

この度、PA 会からご推薦をいただき、令和 3 年度の日本弁理士会役員定時選挙において常議員として立候補させていただくことになりました宗像孝志と申します。どうぞよろしくお願いいたします。立候補にあたり、簡単ではございますが自己紹介を兼ねてご挨拶をさせていただきます。

高専卒業後、通信事業会社にて設備（交換機）保守担当として社会人をスタートし、その後、大手企業への新通信システムの営業担当を支援する SE 部門にて、当時の新技術を活用したシステムの提案・設計・構築などをしていました。企業勤務時に知的財産に関係することはほぼなく、「特許ってヒラメキで一儲けできるやつでしょ？」程度の理解しかしていない日々でした。

社会人 12 年を超えた当たりから、自分の業務の意義や努めている企業の存在価値に疑問が生まれ、「もっと創造的なことに挑戦したい」と漠然と考えていたタイミングで、「ビジネスモデル特許」の流行が始まり、知り合いから「ビジネスモデル特許の開発をするから技術面でサポートして欲しい」との依頼を受け、最初は単なる手伝いだったのが、いつしか本腰を入れる形に代わり、結果 14 年努めた企業を辞めて転職しました。

転職先では、半年で 50 件近いビジネスモデル特許の開発と出願をサポートすることになるのですが、その業務を通じて、弁理士という士業を知り、出願業務にクライアント側として関わり、代理人の仕事の雰囲気も知ることとなり、新たな興味の対象として「発明を創作して、それを権利化する仕事って面白い」と思うようになり、出願を依頼していた弁理士が経営する特許事務所へ転職しました。

このような流れに身を任せた結果として、特許事務所にお世話になり、その結果、弁理士試験にも挑むようことになりました。しかし、元々が「弁理士になりたい！」と強い願望を持っていたわけもなく、正直なところでは「なんとかく成り行きで始めた受験」でしたので、大手予備校にて一通り講座を受けていればいずれ合格できるだろう、と極めて甘い認識でスタートした因果応報として、数年の受験生活を過ごすことになってしまいました。

受験生活も長くなりつつあったある年、一次試験の不合格に直面して初めて真剣に「勉強の仕方はこれでよいのか？」と思い直し、教室で講義を聞いて自分で復習する「学校のような」スタイルは自分に合わないと気づき、少数の私ゼミでの勉強に切り替えました。その結果、受験仲間との議論を通して自分の足りない部分に直面しつつ、一つ一つを改めて行くことができ、合格することができました。PA 会とのご縁はそのゼミでご指導をいただいた先生からの紹介です。

これまでの自分は「良いご縁」のお陰で、良い方向の向かうことができています。PA 会とのご縁もまさにそうです。当初は口述模試のお手伝いで関わらせていただき、その最中に、広い知見と豊かなご経験をお持ちの諸先生方との交流機会に恵まれ、幹事会のお手伝いもできるようになり、弁理士会の委員会活動に参加させていただいております。

PA 会に入会させて頂いたことで、様々な経験をさせて頂き、大変感謝しております。常議員に当選させて頂きましたら、PA 会のさらなる交流と団結のため、また弁理士全体の発展に寄与できるように、精一杯努めさせて頂く所存でございます。選挙期間中は何かとご面倒をお掛け致しますが、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

（文書責任者：高橋雅和）